

ミニボートの船長さん!!

本当に出港できますか？

～「せっかく来たから・・・」と無理な出港は、大きな事故に繋がります!!～

①まずはミニボートの特性を知りましょう。

ミニボートは、**風や波の影響を受けやすい**ので注意しましょう。
メーカー指定の定員や重量を遵守し、船内では立ち上がったたり、
舷が低い**ため船外に上体を乗り出したりしない**ようにしましょう。

ミニボートに関する詳しい情報をスマホでチェック

ウォーターセーフティーガイド(WSG)



②出港できるかどうか慎重に判断しましょう。 出港後は、海上模様の予報・変化に注意しましょう。

ミニボートが安全に航行できる目安は、

・**波の高さが20cmくらいまで(=水面から船べりの高さの半分以下)**

※船内に波が打込み、浸水や転覆の危険が高まります。

・**風速は4m/s以下(顔に風を感じる、旗がなびく程度の風)**

※船体が風に流され思った方向への移動が困難になります。

と考えてください。

白波が見えていたり、波浪警報等発令中の出港はやめましょう。

少しでも不安を感じるようであれば、出港を見合わせましょう。

出港後は、インターネット等でこまめに気象情報入手し、

常に海上模様の変化に注意しましょう。



③オールで漕いで帰れる範囲で行動しましょう。

エンジン故障時のことも考え、オールで帰れる範囲で行動しましょう。

岸から1km程度、陸上にいる人の動きがわかる程度の距離が目安です。

岸から近ければ急な天候の変化にも対応しやすくなります。

海上保安庁では、「**自己救命策確保3つの基本**」を推進しています。

① **ライフジャケットの常時着用**

② **「118」番の活用**

③ **連絡手段の確保**



中城海上保安部

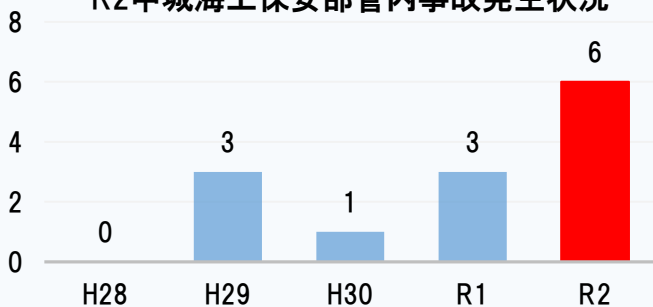
～愛します！守ります！美ら海レジャーの安全～

H28-R2ミニボート事故発生状況

近年、ミニボートによる事故が増えています。

沖縄県内では、平成28年から令和2年までの5年間で、ミニボートによる事故が19隻発生しており、そのうち約7割が、**沖縄本島東海岸側で発生**しています。また、中城海上保安部管内では、昨年1年間で、ミニボートによる事故が**6件発生**しています。いずれも、大事には至りませんでした。が、一歩間違えば大きな事故に繋がりがかねないものでした。

R2中城海上保安部管内事故発生状況



H28-R2沖縄県内ミニボート事故発生状況



事故事例①

船長は、親戚2名とミニボートに乗船し釣り中、海上に落ちた帽子を同ボート左舷側から取ろうとし**上体を乗り出したところ**、バランスが崩れ転覆し、3名とも海上に投げ出されたもの。

【事故に至る背景】

ミニボートの積載量が200キロのところ、成人男性3名及び釣りの資機材を積み込んでいたため**重量オーバー**であった。また、ミニボートは不安定でバランスに注意しなければいけない等、ミニボートの特性をよく理解していなかった。

事故事例②

船長は、釣りをするため友人1名とミニボートで漁港近くの沖防波堤向け出港したが、沖防波堤手前で**波や風の影響を受け**、エンジンを使用してもミニボートが思う方向へ進まなくなり、そのまま圧流されたもの。

【事故に至る背景】

事故当時、波浪注意報等の発令はなかったものの、**出港した漁港内では4m/sだったが、港外ではそれ以上の風が吹いていた**。船長も、出港前に少し風が強いと感じたが、新しく購入したボートを使用しなくて出港を取り止める判断ができなかった。

【ミニ知識】 港内では、平穏で風や波が感じられなくても、港外では風が強く、波が立っていることがありますので、十分に注意しましょう。

